

第3節 鎌倉リビングラボの取り組みについて（神奈川県鎌倉市）

川尾正嗣（一般財団法人自治研修協会 事務局長）

1. 鎌倉市について

鎌倉市は、神奈川県南東部に、また三浦半島の基部に位置する歴史的風土の豊かな都市である。市域は東西 8.75 k m、南北 5.20 k mで、面積は 39.67 km² であり、南は相模湾に面し、多摩・三浦丘陵群の小高い山々に囲まれるなど美しい自然環境に恵まれている。表日本型の気候に属し、気温較差も比較的少なく温暖良好な気候である。

歴史的には、日本における古代から中世への転換期において源頼朝をリーダーとする武家が、日本で初めての武家政権を樹立し、それまでの貴族支配に替わる武家の支配を築いた場所である。頼朝が開いた幕府は、1230 年頃になると全盛期を迎え、鎌倉は政治、軍事、外交、文化などあらゆる面で日本の中心地となった。当時の築港である和賀江島を通じて中国の宋や元との交易が盛んに行われ、禅宗、禅宗様建築、仏像彫刻、彫漆など様々な中国文化がもたらされ、それらは長い年月のなかで守り続けられ、今日でも中世の社会を支えた繁栄の歴史と華やかな文化を伝えている。

＜鎌倉市の基礎データ＞

面積 36.67 km²

令和 2 年国勢調査人口 172,821 人

令和 2 年度決算（普通会計）歳出総額 79,215 百万円

令和 2 年度財政力指数 1.087

2. 鎌倉リビングラボがスタートするまで

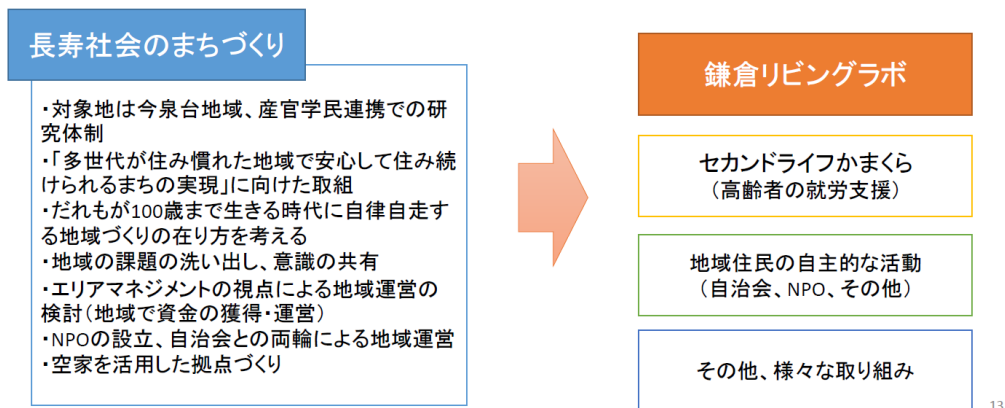
鎌倉市では、平成 23 年から「長寿社会のまちづくり」をテーマに調査研究活動を開始し、平成 29 年 1 月に「鎌倉リビングラボ」をスタートさせた。

この調査研究は、高齢化が進んでいる郊外型分譲地である「今泉台」という地域をフィールドにして、長寿社会における課題や対応策等のモデルを構築することを目的としていた。

調査研究に当たって、鎌倉市の政策創造専門委員を務め、持続可能なまちづくりについて指導、助言をされていた東京大学高齢社会総合研究機構特任教授（当時）の秋山弘子氏の提言により、平成 29 年 1 月、「鎌倉リビングラボ」がスタートした。

取組事例の概要

- ・ H23～26年度に実施した「長寿社会のまちづくり」研究を受け、少子高齢化、人口減少の進む地域の課題解決策の一つとして、「鎌倉リビングラボ」を開始（H28年度～）
- ・ 政策創造専門委員を務める、東京大学高齢社会総合研究機構の秋山弘子特任教授（当時）が提案し、スタートした。



13

「鎌倉市資料」

リビングラボの体制は次のとおりである。

- ・ NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台（今泉台の町内会から発展）
- ・ 東京大学高齢社会総合研究機構（秋山弘子特任教授）
- ・ 三井住友フィナンシャルグループを代表とする民間企業
- ・ 鎌倉市役所（共生共創部政策創造課）

鎌倉リビングラボの体制



高齢社会共創センター
Co-Creation Center for Active Aging

作成資料をもとに鎌倉市作成

20

「鎌倉市資料」

(出典：鎌倉市ホームページ)

鎌倉市では、高齢化が進んでいる郊外型分譲地である今泉台地域をフィールドに、平成23年から「長寿社会のまちづくり」をテーマに調査研究活動を開始し、長寿社会における課題や対応策等のモデルを構築することを目的として平成28年までの期間で活動を行いました。

この間、鎌倉市政策創造専門委員を務め、持続可能なまちづくりについて指導、助言を受けていた東京大学高齢社会総合研究機構特任教授（当時）の秋山弘子氏の提言により、東京大学高齢社会総合研究機構がコーディネーター役を務める形で、今泉台町内会（NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台）、東京大学高齢社会総合研究機構、三井住友フィナンシャルグループ等及び鎌倉市が連携し、日本で初めての本格的取組となる「鎌倉リビングラボ」が平成29年1月からスタートしました。

(出典：鎌倉市記者発表資料)

平成29年1月30日

担当 政策創造課 山戸

電話 内線 2241

日本とスウェーデンの共同研究による「鎌倉リビング・ラボ」
の取組がスタート

このたび、今泉台町内会（NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台）、東京大学高齢社会総合研究機構、三井住友フィナンシャルグループ等、及び鎌倉市が連携し、日本で初めての本格的な取組となる「鎌倉リビング・ラボ」をスタートしましたので、お知らせします。

この取組は、主にヨーロッパ圏で広まってきたリビング・ラボが、アジア圏との連携を図るに当たり、長寿社会のまちづくりに取り組んできた鎌倉市今泉台がその窓口としての役割を果たそうとするものです。

1 リビング・ラボとは

リビング・ラボ（Living Lab）とは、まちの主役である住民が主体となって、暮らしを豊かにするためのサービスやものをうみだしたり、より良いものにしていく活動です。世界では、欧州を中心に約400カ所のリビング・ラボが活動しており、近年日本でも注目されつつある地域・社会活動です。

従来から企業で行われてきた単なる商品テストとは一線を画すものであり、例えば、具体的な商品やサービスの開発が行われる前の段階で、住民が

必要としているものをゼロベースで検討し、市民、大学、企業、行政など様々な人たちがアイデアを持ち寄り、サービスのプロトタイプを実際に使ってみながらディスカッションを繰り返すなど、試行錯誤しながらアイデアを具体的なサービスに育て上げ、新たな価値を創造するものです。

まちづくりの視点から見れば、リビング・ラボの活動を通し、これまでは地域の活動に参加していなかった方にも参加のきっかけが生まれ、まちに多世代の交流や活気が生れることが期待されます。

2 活動内容

今泉台町内会を中心として、商品の試作品や新商品を実際に使ってもらい、その様子を観察したり感想を話して頂くテストや、テーマに応じた生活のアイデアや悩み、開発中のサービス・製品に関するご意見などを自由に話すグループインタビュー、アンケートなどを実施します。

平成 28 年 11 月には、テストケースとして、ヨーロッパの薬剤メーカーからの依頼を受けた薬剤パッケージの商品テストを実施しました。対象となる商品等の調整は東京大学が、また、今泉台での運営サポートは主として NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台が担い、鎌倉市もこれに協力します。

なお、当面の活動資金は東京大学が JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）を通じて獲得した資金（戦略的国際共同研究プログラム国際産学連携「日本・スウェーデン共同研究」及び「戦略的創造研究推進事業における平成 28 年度研究開発成果実装支援プログラムの新規実装プロジェクト」）を活用して実施します。

3 効果等

「鎌倉リビング・ラボ」は、様々な主体が連携した本格的なリビング・ラボとしては国内でも極めて先進的な取組であり、ヨーロッパのリビング・ラボと連携した国際的な取組となります。

鎌倉市としては、地域の様々な方がこの活動に参加すること、また将来的には、テスト等に参加することによって得られる対価が、「鎌倉リビング・ラボ」の舞台となる今泉台における地域活動の資金循環に寄与する活動となることにより、地域コミュニティの活性化等につながると考えています。

また、鎌倉市の中でも特に高齢化の進む住宅団地である今泉台でのリビング・ラボを通して、高齢者の使いやすい商品やサービスの開発、ひいては長寿時代にふさわしい新たな働き方、生き方、社会の在り方の提案につながることが期待されます。

4 今後の予定

平成 29 年 3 月末までの間に、2～3 程度の商品テスト等を実施する予定ですので、ぜひご注目ください。

3. リビングラボのフィールドとなった今泉台地域の特性と課題

(1) 今泉台地域の特性は次のとおりである。

- ・ 昭和 40 年代に開発された丘陵地のニュータウンで、分譲地のほとんどは 2 階建ての一戸建てである。
- ・ 高齢化率が約 45% と高い。(鎌倉市全体は約 30%)
令和元年 7 月現在 人口 4,867 人、世帯数約 2,000 世帯、
高齢化率 44.9% (65 歳以上人口 2,188 人)
- ・ ゴルフ場やハイキングコースに囲まれた緑豊かで静かな環境にある。
- ・ 住民の大多数が元サラリーマン・専業主婦の夫婦世帯となっている。
- ・ J R 大船駅からバスで 20 分 (大船駅)

(2) 今泉台地域の課題は次のとおりである。

- ・ 地域の概要と重なるが、高齢化率が約 45% と高い。(鎌倉市全体は約 30%)
- ・ 若い人が戻ってこない。
(いつまでもこの地域に住み続けたい。若い世代に残ってほしい。若い世代に入ってきてほしい。)
鉄道を利用すれば都内へ約 1 時間でアクセス可能であり十分に通勤圏内であるが、首都郊外のベッドタウンとしては地価が高い傾向があるため、都心で働き寝るために帰るだけなら何も鎌倉に住む必要はないと考える若い世代が多い。
- ・ 独居のお年寄りや空き家が増加し、コミュニティの機能衰退が懸念される。
分譲地のほとんどは、2 階建ての一戸建てに核家族が住むタイプとなっている。子供の独立や配偶者の死亡などで家族構成が変わっても、そのまま住み続ける世帯がほとんどで、使われていない部屋が多く、空き家になっている例も少なくない。

活動の中心：今泉台地域



- ・自然に囲まれた静かな住宅街。
- ・大船駅からバスで20分。

「鎌倉市資料」

4. 鎌倉リビングラボの成果について

人生 100 年時代の 在宅ワーク環境と家具の開発

前述のとおり、今泉台地域は、鉄道を利用すれば都内へ約 1 時間でアクセス可能であり十分に通勤圏内であるが、首都郊外のベッドタウンとしては地価が高い傾向があるため、都心で働き寝るために帰るだけなら何も鎌倉に住む必要はないと考える若い世代が多いということである。

一方、自然や文化遺産に恵まれ、充実した週末や余暇を過ごせるという魅力もあって、地価の高さをカバーできるので、まだ使っていない部屋や応接間をホームオフィスにしたり、空き店舗をサテライトオフィスにしたりするなど、通勤しなくても仕事のできる環境の整備を図ると同時に、在宅勤務で使える家具の開発をすることによって、若い世代の転出を抑えたり転入をもたらす効果が期待できるともいえる。

こうした考えのもと、狭いスペースでも使えて、使わないときは折りたたんでおける「小さなオフィス」にすること、「リタイヤ世代も子育て世代も一緒に住めるまち」にするということを目指して、テレワーク用の家具やスペースといったものの開発を進めた。要は、今泉台地域は戸建ての住宅が中心で、高齢の夫婦だけの世帯が多く、使わない部屋があったりすると、そもそも空き家になっているものもあることから、それらを有効に活用できるようなものを作って、若い人に住んでもらうということである。

リビングラボでは、

- ① まずは、関係者が集まって議論しアイデアを出す。

(地区住民による自由な議論、アイデア出し)

- ② 続いて何らか設計する。(コンセプト設計)
- ③ 試作品を作る。(家具メーカーによるプロトタイプの試作)
- ④ ここでは段ボールを使った試作品を作っているが、それを実際に使ってみて出てきた意見をもとに改良する。実際には、このワークスペースについては、「もっとコンパクトにしてほしい」とか、「ライトがほしい」といった意見が出て改良されて行ったとのことである。

A 住民課題にもとづく…「長寿社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境の開発」

「人生100年時代の在宅ワーク環境と家具」

全くゼロの状態からコンセプト設計を行い、商品化の可能性を模索中

家具メーカーと共創



コンセプト設計



段ボール Mock-up Model の評価



プロトタイプの評価



小スペース向けホームオフィス家具



実際に自宅で使用し評価



27

「鎌倉市資料」

これにより、以下にあるようなテレワークデスクが商品として開発されている。

日本でのリビングラボによる商品開発、販売 第1号

ON^{オフ}OFF 生活と仕事のON/OFFを
切り替えるテレワークデスク



UBIQ^{ユビク} どこにでも持ち運んで
使えるテレワークデスク



「鎌倉市資料」

(出典：鎌倉市記者発表資料)

令和元年（2019 年）11 月 7 日

政策創造課長 竹之内

電話 0467-23-3000（代表）

内線 2791

第7回プラチナ大賞 優秀賞の受賞について

株式会社イトーキ（以下「イトーキ」という。）が中心となり、本市と連名で応募した「まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境創り～」が、第7回プラチナ大賞において、優秀賞を受賞しました。

1 受賞内容 第7回プラチナ大賞優秀賞～リーディング賞～

「まちの未来を創る『鎌倉リビングラボ』活動～超高齢社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境創り～」は、イトーキと鎌倉リビングラボが進めたテレワーク家具の開発の取組、またその取組を通じて目指す「住み続けられる地域」に向けた活動の報告を行ったものです。

全 50 件の応募の中、第一次審査を通過した 13 団体のうち、2 団体が大賞に、他の 11 団体が優秀賞に選ばれました。鎌倉リビングラボについては、産官学民連携で、住民ニーズに応じた商品開発が評価されたものです。

なお、鎌倉リビングラボの先進的な商品開発、価値創造が評価され「リー

ディング賞」との副題をいただきました。

2 主催 プラチナ構想ネットワーク

会長 小宮山 宏

(株式会社三菱総合研究所理事長、東京大学 28 代総長)

幹事長 岩沙 弘道 (三井不動産株式会社代表取締役会長)

自治体・大学・研究機関・企業・海外都市のネットワークからなる全国規模の連携組織です。エコで、高齢者も参加でき、地域で人が育ち、雇用のある、より質の高い人生や生活を楽しめる快適な社会を、未来のあるべき社会像「プラチナ社会」と定義し、その実現を目指しています。平成 31 年 (2019 年) 3 月時点の会員数は、158 自治体、175 法人等。

3 プラチナ大賞とは

プラチナ構想ネットワークが主催する「プラチナ大賞」は、未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的に創設されました。イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または実現しようとしている全国各地の取組を「賞」というかたちで称え、広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図っています。

プラチナ構想ネットワークのホームページにおいても、本件について発表される予定です

5. コロナ禍における活動

令和 2 年に新型コロナウイルスの感染拡大が大きな社会課題となり、同年 4 月 7 日、新型コロナウイルス感染症対策本部長 (内閣総理大臣) による緊急事態宣言が行われた。緊急事態措置を実施すべき区域 (緊急事態措置区域) は、当初 7 都府県であったが、同月 16 日には全都道府県に拡大された。その後、措置区域は順次縮小され、同年 5 月 25 日には緊急事態宣言が一度全面的に解除された。

令和 3 年 1 月 7 日に至り、4 都県を対象に再度緊急事態宣言が発令された。

これについても措置区域の拡大と縮小を経て、同年 3 月 21 日、緊急事態宣言は再度全面的に解除された。

令和 3 年 2 月に新型インフルエンザ等対策特別措置法が改正され、新たに「まん延防止等重点措置」が創設された。これを受け、同年 4 月 5 日、3 府県がまん

延防止等重点措置の対象区域（重点措置区域）に指定された。重点措置区域は順次拡大されたのち、同月 25 日、重点措置区域のうち 4 都府県が緊急事態措置区域に移行した。その後は、両措置区域の拡大と縮小を経て、同年 9 月 30 日をもって両措置は全面的に解除された。

令和 4 年 1 月 9 日、3 県が重点措置区域に指定された。これについても拡大と縮小を経て、同年 3 月 21 日をもって全面的に解除され今日に至っている。

緊急事態宣言もまん延防止等重点措置も解除されているが、令和 2 年初期の感染拡大以降、新型コロナウイルスはタイプを変えて数次にわたり感染拡大と縮小を繰り返している。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染拡大が始まった頃のような厳しいものではないにしろ、今日においても、いわゆる三密を避けること（密閉空間、密集場所、密接場所を避けること）、外出の自粛（不要不急の外出の自粛）、接触の減（人と人の接触の減、ソーシャルディスタンスの確保）、マスクの着用、手洗いの励行、喚起の徹底、黙食等々といった対策が求められている。

そうした状況のもと、鎌倉リビングラボにおいても次のとおり対応している。

（１）現状の取扱い

- ・ 会場に集まって行うワークショップを自粛し、当面はオンラインによるイベント・ワークショップを検討する。
- ・ オンライン会議ツール（zoom）を使って、自治町内会のイベントをオンラインで代替することを目標にする。
- ・ どのような方法が住民にとって望ましいのかを検討するワークショップもオンラインでの実施を検討する。
- ・ オンラインイベントやオンライン会議ツールの体験を通して、デジタル機器の便利さや身近なものであることを体験してもらい、デジタル機器との楽しい付き合い方のきっかけにする。

（２）課題としては次のようなものがある。

- ・ 住民のオンライン会議に対するリテラシーが低い状態から、どのようにしてオンラインイベントを実施するか。
- ・ 参加者はある程度リテラシーやデジタルに対する意識の高い人のみになってしまう。

(3) 解決策は次のとおりとしている。

- ・ 自治会との打ち合わせに zoom を導入し体験してもらい、まずは少しずつ自治会のリテラシーを高める。
- ・ これらの方々が地域の伝道師になるように努める。

6. 今後の展開・展望

鎌倉リビングラボは先進的で優れた取り組みであり、今後の活動が注目される。

今後の展開と展望について、市としては次のとおりとしている。

- ・ 新しい手法を検討し、コロナ禍においても活動できる取組へ
- ・ リビングラボをとおして、地域に新たな価値を創造するまちへ
- ・ 様々なステークホルダーとの共創の取組をとおして、持続可能なまちへ
- ・ 住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らし続けられるまちへ

鎌倉リビングラボの取組について

鎌倉市 共創計画部
政策創造課

1

令和2年4月1日現在

面積：39.67km²
人口：172,493人
高齢化率：30.63%

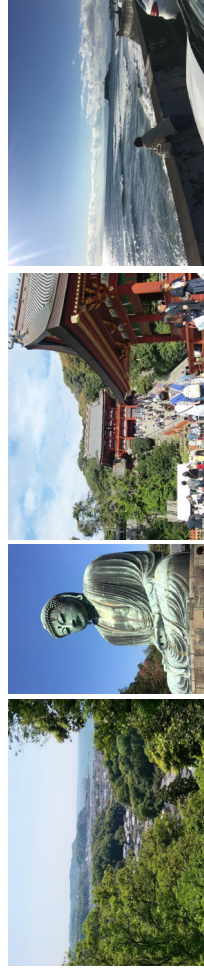
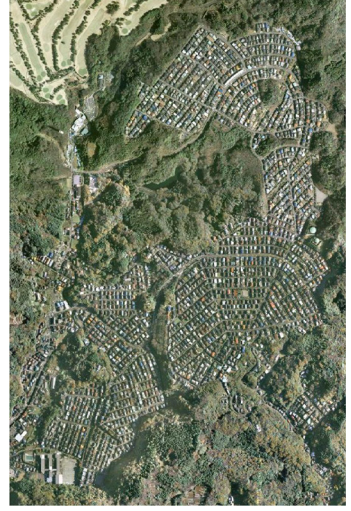


- ・鎌倉市は県内でも高齢化率が高い地域
- ・観光地と同時にベッドタウンの性質も併せ持つ
- ・人口増加のピークは過ぎ、横ばいから減少傾向
- ・全国的にも高齢化率が高く、特に高度経済成長期に開発された郊外型分譲地では50%に近い地域もある。



鎌倉市の概要を紹介します

高度経済成長期
宅造ラッシュにより多くの丘陵が削られ
『昭和の鎌倉攻め』と揶揄される



年間約2,000万人以上の観光客（入込観光客数）が訪れるまち



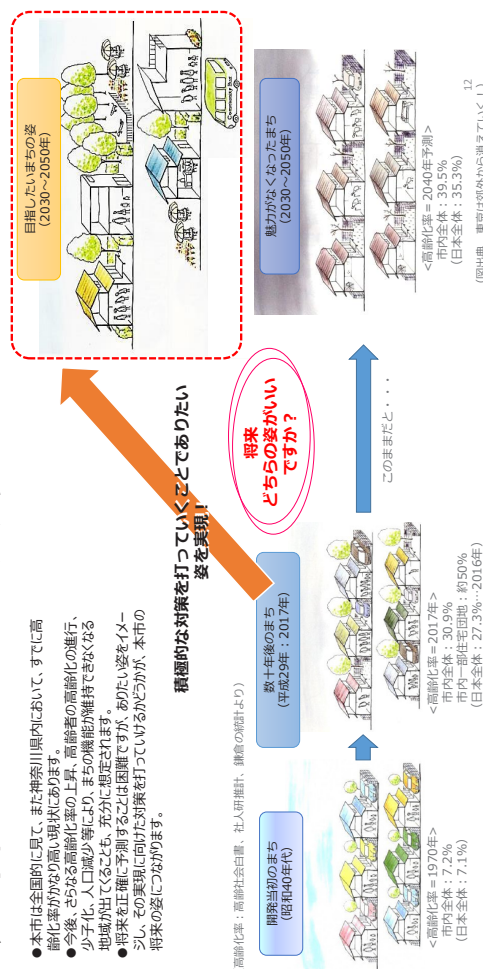


長寿社会のまちづくり研究_(H23~)

●本市は全国的に見て、また神奈川県内において、すでに高齢化率がかなり高い現状にあります。

- 今後、さらなる高齢化率の上昇、高齢者の高齢化の進行、少子化、人口減少等により、まちの機能が維持できない地域が出てくることも、充分に想定されます。
- 将来を正確に予測することは困難ですが、ありたい姿をイメージし、その実現に向けた対策を打っているかどうか、本市の将来の姿につながります。

積極的な対策を打っていくことでありたい
姿を実現！



11

リビングラボの前に・・・
「政策創造課」について

政策創造課のご紹介

- ・中長期的な政策立案・課題解決を考慮実践する部署として、特命担当である「政策創造担当」を2011年に設立。
 - ・自治体シンクタンクとして、庁内横断・中長期的課題の解決を探索的研究に取組む。
- その他、先進的な取組や官民連携等も担当。



片内で初のフリーアドレスを
導入しました♪

取組事例の概要

- ・H23～26年度に実施した「長寿社会のまちづくり」研究を受け、少子高齢化、人口減少の進む地域の課題解決策の一つとして、「鎌倉リビングラボ」を開始（H28年度～）
- ・政策創造専門委員を務める、東京大学高齢社会総合研究機構の秋山弘子特任教授（当時）が提案し、スタートした。

長寿社会のまちづくり

- ・対象地は今泉台地域、産官学民連携での研究体制
- ・「多世代が住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちの実現」に向けた取組
- ・「だれもが100歳まで生きる時代に自律自走する地域づくり」の在り方を考える
- ・地域の課題の洗い出し、意識の共有
- ・エリアマネジメントの視点による地域運営の検討（地域で資金の獲得・運営）
- ・NPOの設立、自治会との両輪による地域運営
- ・空家を活用した拠点づくり

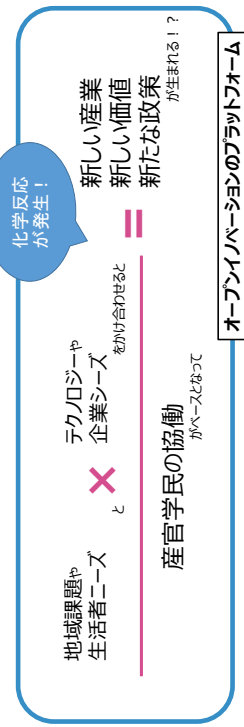
鎌倉リビングラボ

- セカンドライフかまくら（高齢者の就労支援）
- 地域住民の自主的な活動（自治会、NPO、その他）
- その他、様々な取り組み

13

リビングラボとは・・・

- ① モノやサービスの**開発プロセス初期段階**から、
- ② **生活者**（ユーザー）が中心となって、**企業、大学、行政等と一緒に、**
- ③ **生活の場で暮らしを豊かにするための新たな価値を創造**する活動のこと
- ④ 生活者のニーズからイノベーションを誘発する**オープンイノベーションのプラットフォーム**



15

鎌倉リビングラボ

まちの未来を創る

地域内外の人たちが暮らしを彩るアイデアの種を持ち寄り共に育てる、新しい地域・社会活動『リビングラボ』を始めます♪

鎌倉リビングラボ活動

2017年1月
キックオフ！



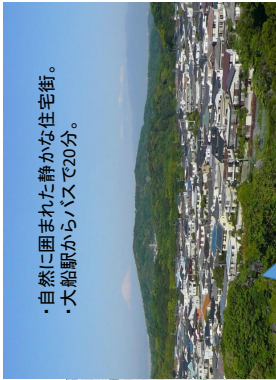
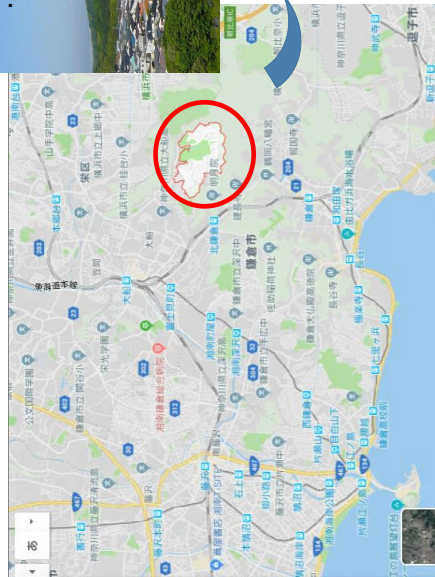
東京大学高齢社会総合研究機構 鎌倉Living Labプロジェクトチーム

リビング・ラボでは何を行うの？



16

活動の中心：今泉台地域



- ・自然に囲まれた静かな住宅街。
- ・大船駅からバスで20分。

17

地域の特性

(今泉台地域)

- ・主に昭和40年代に開発された、戸建て住宅団地（住民協定あり）
- ・高齢化率は約45%（鎌倉市の高齢化率は約31%なため、非常に高い水準）
- ・大船駅からバスで約30分、外に通じる道路も少ない。斜面地がほとんど。
- ・自然に囲まれた豊かな地域

<今泉台地域基礎データ（2019.3）>
 ■人口：4998人
 ■世帯数：1997世帯
 ■高齢化率：44.8%
 （75歳以上は28.8%）

課題

- ・いつまでもこの地域に住み続けたい
- ・若い世代に地域残ってほしい、入ってきてほしい
- ・少子高齢化、税収減が続く中、自律自走する地域運営（エリアマネジメント）

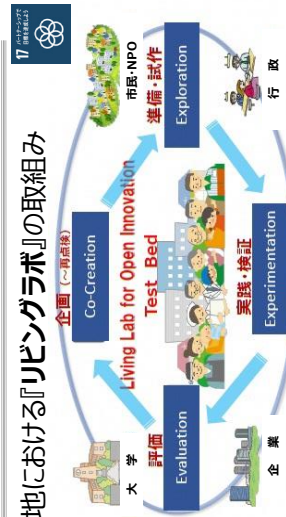
18

【地域のかで課題を解決】鎌倉リビングラボ

著しい高齢化が進行する郊外の住宅地における『リビングラボ』の取組み

高齢化率が高いことを地域の強みと捉え、日本が迎える超高齢社会・長寿社会に必要な商品やサービスを産官学民連携で生み出す場を共創。

生活の場をLab（研究の場）として生活の中から政策・施策を立案



鎌倉リビングラボの体制



高齢社会共創センター
Co-Creation Center for Active Aging
作成資料をもとに鎌倉市作成

20

日本とスウェーデンの共同研究による「鎌倉リビングラボ」



今泉台町内会（NPO法人タウナサポート鎌倉今泉台）、東京大学高齢社会総合研究機構、三井住友フィナンシャルグループ等、及び鎌倉市が連携し、「鎌倉リビング・ラボ」をスタート！

平成29年1月30日 記者発表

21

スウェーデン国王夫妻が今泉台に視察にお越しになりました！



スウェーデンとの国際連携型リビングラボ
～スウェーデンチームをお迎えるワーキングショップ開催 2018/4/5～

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の選定を受ける

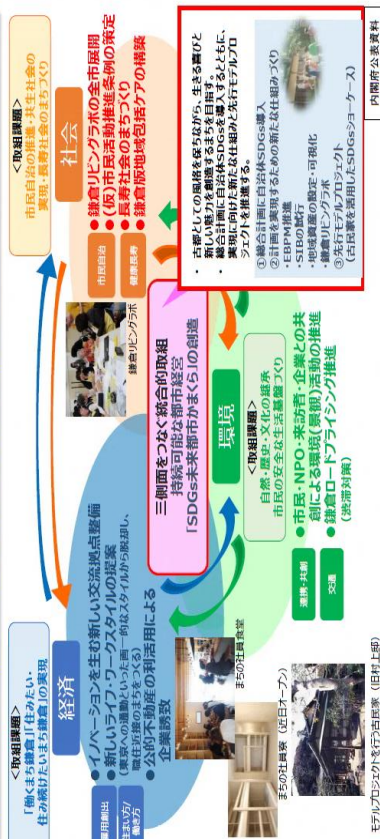


これまで取組んできた「持続可能なまち鎌倉」の創造を
SDGs未来都市としてさらに推進

24

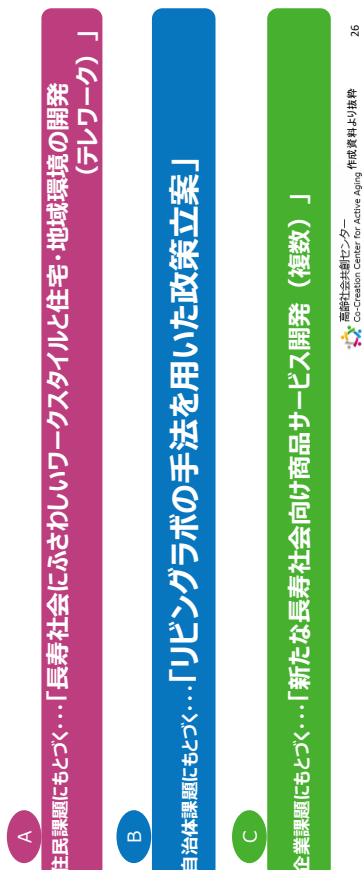
神奈川県鎌倉市

- ・市の総合計画について、SDGsの理念を掲げ、市民参画やEBPMにより改定する。実行に当たっては、計画の推進に寄与する取組リスト化や取組に対する特典還元により、実効性を担保する。また、先行モデルとして歴史的建造物を改修し、観光・交流・歴史と文化を継承する場として、情報発信する。



鎌倉リビングラボの展開

2017-18年度（2年間）を目前に、次のA～Cの共創活動を実践し、
具体成果を創出しながら、当該活動の機序（メカニズム）及び事業構造を確立すること
（＝日本版リビングラボ活動・事業のモデルの構築）



日本でのリビングラボによる商品開発、販売 第1号

ON^{オフ}OFF



U-B-I-O
トビックス



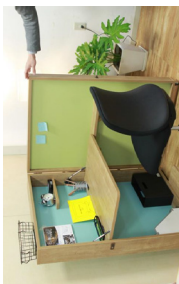
住民課題にとづく…「長寿社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境の開発」

「人生100年時代の在宅ワーク環境と家具」

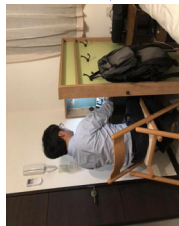
中模を可能性化の商品、商品設計を行い、ゼロの状態からコン



コンセプト設計



Model の評価



プロトタイプの評価

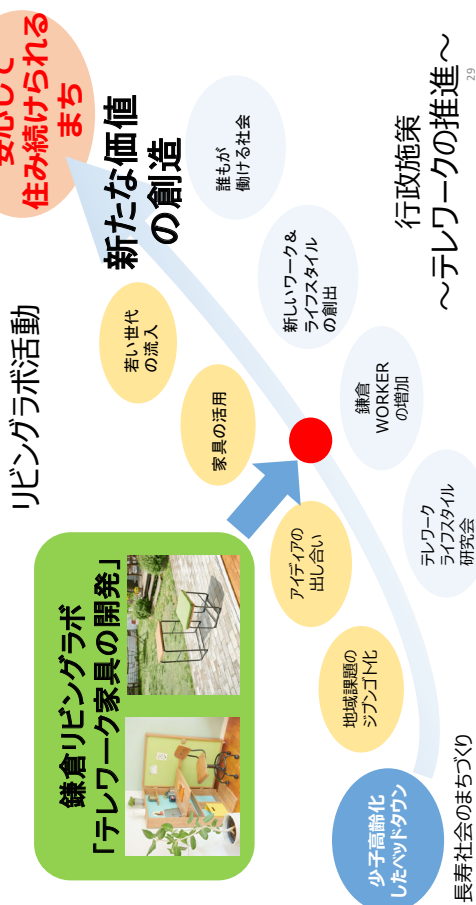


ホスぺース向けホームオフィス家具

実際に自宇で使用する評価

新たな価値を創造!!

行政施策とのリンク



成果と今後の展開

	鎌倉リビングラボ 開始当時	現在
空き家数	96 軒 (平成28年6月調査時点)	82 軒 (令和元年6月調査時点)
今泉小学校 の児童数	423 人 (平成28年5月1日時点)	470 人 (平成31年5月1日時点)

▽今後の展望

リビングラボ手法による政策立案の仕組み創出へチャレンジなど

社会課題の解決をおとした新しい価値の創出

30

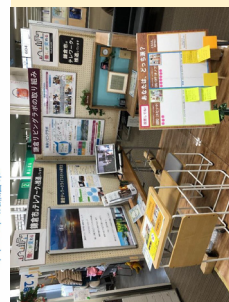
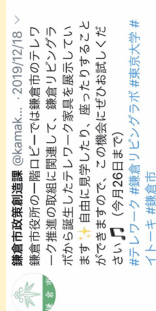
プラチナ大賞:優秀賞～リーディング賞～



31

テレワーク家具の展示・体験

①鎌倉市役所1階ロビー展示 (令和元年12月17日から同年12月26日まで)



②西鎌倉CONNECT (令和2年2月12日から同年6月まで)



③鎌倉市役所4階フリースペース (令和2年7月17日から現在展示中)



C 企業課題にもとづく…「新たな長寿社会向け商品サービス開発」

■ (高齢者向け) 新型モビリティ 試乗評価



33

これまでに実施してきたタイプC

- 1 薬品パッケージ(ベルギーの製薬会社案件)
- 2 高齢女性向けジャンプン開発
- 3 高齢者向け生活支援パッド
- 4 高齢者向け新型モビリティ
- 5 家電メーカーが開発した新しい生活支援サービス
- 6 証券会社の高齢者向け商品説明資料
- 7 高校生向け100年ライフプランニングゲーム
- 8 夫婦の家事シェア
.....など。

その他多数。

* 単なる商品テストとは一線を画す

- ▽ 具体的な商品やサービスの開発が行われる前の段階で、住民が必要としているものをゼロベースで検討し、市民、大学、企業、行政など様々な人たちがアイデアを持ち寄り、サービスのプロトタイプを実際に使ってみながらディスカッションを繰り返すなど、試行錯誤しながらアイデアを具体的なサービスに育て上げ、新たな価値を創造するもの。
- ▽ 特に鎌倉リビングラボでは、長寿社会のまちづくりに必要なものやサービスを、に特化した内容を取っており、鎌倉から世界に向けて新たなソリューションを発信することを目指す。

34

背景

- 近年では、「行政活動へのデジタル化/活用」により、先端技術による社会課題の解決を目指した活動が盛んになっている。(パブリックとも呼ばれる)
例えば、AI、VR、IoTといった様々なデジタル技術が市民の生活を豊かにし、行政の業務効率化も図られている。そのため、鎌倉市でも行政のデジタル化、社会・地域のスマート化を目指している。

鎌倉市の行政課題

- 鎌倉市はパブリックやスマートシティの取組の一環で「行政手続きや生活の中でのデジタル化やデジタル化/活用」を推進している。これまで諦めてきたこと、できなかったことがデジタル化/活用の活用で叶う社会を目指すためには、高齢者を中心とするデジタル機器に抵抗感を持っている層への対策が今後の喫緊の課題となっている。誰一人取り残さないため、今後デジタル機器への理解や基本的な操作ができる仕組みを支援・構築していく必要がある。

鎌倉リビングラボの活動目的

- 適切でよりよく、住民の方が真に望む仕組みや方法を模索するため、
- 住民の方から「なぜデジタル機器を使わないのか」「どのようなものであれば使いたいと思うか」、「どのような仕組みであればデジタル機器に関心を持つか」といった本音やこれまでの経験を聞いて、様々なタイプの高齢者の実態を調査し、現状を把握する。
- 住民の方が求める仕組みや方法を実際に一緒に試しながら探る。

36

B 自治体課題にもとづく…「リビングラボの手法を用いた政策立案」

・リビングラボ手法を用いた政策立案を研究中。

テーマ：高齢者のデジタル機器使用に関するニーズ調査と仮説検証

- ▼ 行政課題であるデジタルデバイドの中心となる高齢者を対象として、リビングラボを活用してポトムアップによる「市民の真のニーズ探索」と「解決策の仮説・検証」を行うことを検討中。
- ▼ 様々なタイプの高齢者毎に「なぜデジタル機器を使わないのか」「どのようなものであれば使いたいと思うか」といったそれぞれの実態を把握することを予定。

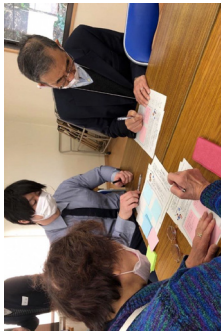
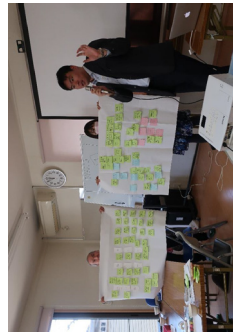
定性データ → 質的調査研究 → 構造化 → (定量化) → 政策立案へ (EBPM)

ターゲット
スライクホルダー分析

市民の声を政策立案に活かす

35

第1回ワークショップの様子



41

リビングラボ全市展開に向けて……(現在の想定)

タイプA～Cの活動をととして

・「リビングラボ」を**知っている**人を増やす

・**体験**する人を増やす (楽しさを実感)

・**担い手**を増やす (今泉台からの講師派遣も視野に)

・**活動場所**の開拓 (地域の活動拠点)

・新規拠点の開設

→ 市内どの地域でもリビングラボ活動を！

タイプBの活動を
きっかけに今泉台
に加えて玉縄台
地域でも開始

HPでの
情報提供

Twitter

広報かまくら
12月1日号
1～2面特集

玉縄台地域での
活動を開始

43

コロナ禍の活動

■現状

- ・会場に集まって行うワークショップを自粛。当面はオンラインイベント・ワークショップを検討。
- ・オンライン会議ツール(zoom)を使って、自治町内会のイベントをオンラインで代替することを今年度の目標に。
- ・どのような方法が住民にとって望ましいのかを検討するワークショップもオンラインでの実施を検討。
- ・オンラインイベントやオンライン会議ツールの体験を通して、デジタル機器の便利さや身近なものであることを体験してもらい、デジタル機器との楽しい付き合い方のきっかけに。

■課題

- ・住民のオンライン会議に対するリテラシーが低い状態から、どのようにしてオンラインイベントを実施するか。
- ・参加者はある程度リテラシーやデジタルに対する意識の高い人のみになってしまう。

■解決策

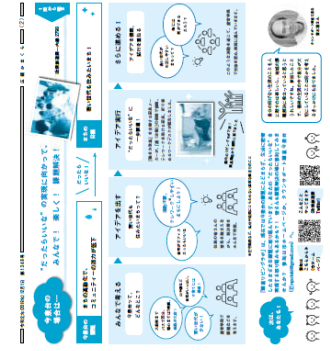
- ・自治会との打ち合わせにzoomを導入し体験してもらい、まずは少しずつ自治会のリテラシーを高める。
- ・これらの方々が地域の伝道師になるように。



自治会館の1階と2階に分かれて
zoom打ち合わせを実施

42

令和元年12月1日号の広報がまくらで鎌倉リビングラボを特集しました！



44

リビングラボを知っている人、体験する人を増やす

①鎌倉市ホームページ



②政策創造課Twitterアカウント



今後の展開・展望

- 新しい手法を検討し、コロナ禍においても活動できる取組へ
・リビングラボをとおして、地域に新たな価値を創造するまちへ
・様々なステークホルダーとの共創の取組をとおして、持続可能なまちへ
・住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らし続けられるまちへ